

分詞構文 1

1. 分詞構文

1 分詞構文の働き

まずは例文を見て下さい。

例文：

Having no money, I didn't buy the book.

(お金が無かったので、その本を買わなかった。)

この文には接続詞がないのに、「～ので」と、接続詞があるような意味になっています。
では、この文を接続詞を使って書き換えてみましょう。

Because I had no money, I didn't buy the book.

このようになります。

上の文のように、「接続詞＋主語＋動詞＋～ → 分詞＋～」の形になったものを分詞構文といいます。極端に表現すると、「接続詞と主語を省略して分詞で表した文」のことです。

2 分詞構文の意味

分詞構文の意味は大きく分けると5つあります。

	理由	時間	時間（同時）	条件	譲歩
意味	～だから	～のとき	～ながら	～ならば	～としても
	～なので	～の後		～すると	～だけでも
接続詞	since	when	while	If	though
	because	after			

これらすべての意味を分詞構文は持っています。ということは、いままでこれらの接続詞を使ってきた文は、すべて分詞構文に書き換えられます。書き換えの解説は後々しますので、まずはこの表と下の例文をまるまる暗記して下さい。

例文：

[理由]

Having a cold, I saw a doctor yesterday.

（風邪をひいたので、私は昨日医者にみてもらいました。）

[時間]

Going to Tokyo, he watched a baseball game at the stadium.

（東京に行ったとき、彼は球場で野球を見ました。）

[同時]

Walking down the street, I found a 1000-yen bill.

（道を歩いていると、1000円札を見つけた。）

[条件]

Studying hard everyday, you'll pass the exam.

（毎日熱心に勉強すると、君は試験に合格するだろう。）

[譲歩]

Admitting that you completed it, I can't trust you.

(君がそれを完成したことは認めたとしても、僕は君を信用できない。)

例文さえ覚えてしまえば、あとはパターン化できます。しっかりと覚えて下さい。

2. 分詞構文の応用

1 分詞構文からの書き換え

では、順を追いながら 1. 2 の例文を書き換えてみます。

例文：

Having a cold, I saw a doctor yesterday.

a. 日本語に訳して、どの接続詞が適当か選ぶ。

コンマの前後を訳してみて、接続詞を断定します。「風邪を引く」と「昨日医者にみてもらった」の 2 文をつなぐには、“～ので” が適当です。だから because を使います。

Because having a cold, I saw a doctor yesterday.

b. 主語を見つける。

コンマ以下の文と同じ主語にします。だから I を使います。

Because I having a cold, I saw a doctor yesterday.

c. 時制を判断し、分詞をその時制に合わせる。

コンマ以下の文が過去形なので分詞を過去形にします。だから had を使います。

Because I had a cold, I saw a doctor yesterday. (完成)

a～c さえできれば、他に変更する部分はありません。どうですか、最初は難しいと思います。何回も練習して、パターンを覚えて下さい。では、1. 2 にある残りの例文も書き換えておきます。

[時間]

When he went to Tokyo, he watched a baseball game at the stadium.

[同時]

While I was walking down the street, I found a 1000-yen bill.

※ while は同時を表すので進行形を使う場合もあります。

[条件]

If you study hard everyday, you'll pass the exam.

[譲歩]

Though I admit that you completed it, I can't trust you.

2 分詞構文への書き換え

1 とは逆の書き換えです。これもパターンさえ覚えれば、あとは単語を変えるだけで応用できます。

例文：

Because I overslept this morning, I was late for school.

(私は今朝寝坊したので学校に遅れました。)

この文を分詞構文にしてみます。

a. 接続詞を省く

接続詞は Because です。これを省略します。

I overslept this morning, I was late for school.

b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

コンマの前後で主語が同じならば省略します。しかし、異なれば残さなければいけません。この文は両方 I なので省略します。

overslept this morning, I was late for school.

c. 動詞を分詞にする。

過去形でも現在形でも -ing にします。

Oversleeping this morning, I was late for school.

これで完成です。これもたくさん練習して、パターンを覚えて下さい。

3 主語の異なる文の分詞構文（独立分詞構文）

先ほどの 2 でも少し触れましたが、コンマの前後で主語が違う場合は、主語を省略することはできません。このような分詞構文を、独立分詞構文と呼びます（※分詞構文 2 でも独立分詞構文を紹介しています）。

例文：

If it is fine tomorrow, I will go hiking.

（もし明日が晴れなら、私はハイキングに行きます。）

この文を分詞構文にしてみます。

a. 接続詞を省く

これは主語が同じ文と変わりません。接続詞は If です。これを省略します。

it is fine tomorrow, I will go hiking.

b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

主語は it と I です。異なるので残します。

it is fine tomorrow, I will go hiking.

c. 動詞を分詞にする。

動詞は is なので、原形に ing をつけて being にします。

It being fine tomorrow, I will go hiking.

これで完成です。英語が得意な人ほどこの形に違和感を持ちますが、使っていくうちにすぐに慣れます。

4 受け身の分詞構文

これはすごく出題されます。しっかりと覚えて下さい。

例文：

Because my bag was stolen, I couldn't go there.

(カバンを盗まれたので私はそこに行けなかった。)

気の毒なこの文を分詞構文にしてみます。

a. 接続詞を省く

これまでと同じ方法です。接続詞は **Because** です。これを省略します。

My bag was stolen, I couldn't go there.

b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

これまでと同じルールです。この文は異なるので残します。

My bag was stolen, I couldn't go there.

c. 動詞を分詞にする。

これまでと同じです。動詞は **was** なので **being** にします。

My bag being stolen, I couldn't go there.

d. 受け身の **being** は省略する。

そうです、受け身の分詞構文にはこんなルールがあるのです。だからこそよく出題されます。

My bag stolen, I couldn't go there.

「**My bag stolen, I couldn't go there.**」これでやっと完成です。受け身の **being** は省略することを覚えて下さい。

分詞構文 2

1. 分詞構文の応用の応用

変な題になりましたが、気にせず参りましょう。

1 完了形の分詞構文

完了形の分詞構文は、動詞ではなく have を having にして表します。

例文：

After I had finished my homework, my mother came home.

(私が宿題を終えた後、母が帰ってきた。)

やり方は分詞構文 1 で解説している過去形や現在形の文とほぼ同じです。最後だけ注意して下さい。

a. 接続詞を省く

接続詞は After です。これを省略します。

I had finished my homework, my mother came home.

b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

コンマの前後で主語が同じならば省略します。この文は両方 I なので省略します。

had finished my homework, my mother came home.

c. have を分詞にする。

have を having にします。

Having finished my homework, my mother came home.

「Having finished my homework, my mother came home.」これで完成です。動詞ではなく have を分詞にすることを覚えて下さい

2 否定文の分詞構文

次は **not** のある文を分詞構文にしてみます。手順は肯定文と同じですが、**not** が文頭に来ることに注意して下さい。

例文：

Though you did not do it, you should apologize to her.

(君がそれをやっていないとしても、彼女に謝るべきだ。)

この否定文を分詞構文にしてみます。

a. 接続詞を省く

接続詞は **Though** です。これを省略します。

you did not do it, you should apologize to her.

b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

コンマの前後で主語が同じならば省略します。この文は両方 **you** なので省略します。

did not do it, you should apologize to her.

c. 動詞を分詞にする。

do を **doing** にします。

did not doing it, you should apologize to her.

d. 助動詞を省き **not** はそのまま。

助動詞の **did** を省きます。そして、**not** はそのままです。

Not doing it, you should apologize to her.

「**Not doing it, you should apologize to her.**」これで完成です。助動詞を省いて **not** を文頭にすることを忘れずにして下さい。

また、**never** を使う否定文もあります。**never** に関しても、手順は **not** と場合と全く同じです。ただ、**never** 自身は、分詞の前後どちらに置いても OK です。

例文：

Because I have never been to USJ, I don't know what it is like.

(僕は USJ に行ったことがないので、どんなのか知らない。)

Never having been to USJ, I don't know what it is like.

Having never been to USJ, I don't know what it is like.

2. 独立分詞構文

1 付帯状況を表す with＋独立分詞構文

分詞構文 1 で解説していますが、独立分詞構文とは、コンマの前後で主語が違う分詞構文です。これに **with** をつけて、付帯状況（～を…して）を表します。

「**with**＋名詞＋**ing**」この形になります。**ing** ではなく過去分詞の時もありますので、両方の例文を挙げます。

○ **with**＋名詞＋**ing**

例文：

A cat was walking with its eyes shining in the moon.

(猫が月光に目を輝かせて歩いていた。)

○ **with**＋名詞＋過去分詞

例文：

He sat on the chair with his legs crossed.

(彼は足を組んでイスに座った。)

この文は本来

He sat on the chair and his legs were crossed.

この形です。これを、**with**＋独立分詞構文にすると、

He sat on the chair with his legs being crossed.

受け身の **being** が出来てしまいます。受け身の **being** は省略するので、過去分詞が使われています。

2 独立分詞構文の慣用句

よく出ます。文を何回も読んで覚えて下さい。

○ **Generally speaking**, 一般的に言って

例文：

Generally speaking, the young are more vital than the elderly.

(一般的に言って、若者は年配者よりも活気がある。)

○ **Judging from**, 〜から判断すると

例文：

Judging from the sky, it will rain soon.

(空から判断すると、すぐに雨が降りそうだ。)

○ **Frankly speaking**, 率直に言うと

例文：

Frankly speaking, you failed.

(率直に言うと、君は落第した。)

3. 分詞構文のその他

1 接続詞のある分詞構文

意味をハッキリさせるとき、分詞構文なのに接続詞がある場合があります。

例文：

Walking in the park, I found a purse.

この文は、

「私が公園を歩いていた時、財布を見つけた。」

「私が公園を歩いていると、財布を見つけた。」

どちらも解釈できます。こんな場合は、誤解を避けるために分詞構文だけど接続詞をつけます。この場合、以下のどちらでも OK です。

When walking in the park, I found a purse.

(When I walked in the park, I found a purse.)

「私が公園を歩いていた時、財布を見つけた。」

While walking in the park, I found a purse.

(While I was walking in the park, I found a purse.)

「私が公園を歩いていると、財布を見つけた。」

2 and の意味をもつ分詞構文

分詞構文の中には、そして～（ and ）を意味する場合があります。

例文：

The bus arrived at seven, and started at eight.

= The bus arrived at seven, starting at eight.

(バスは7時に到着し、8時に出発した。)

分詞構文は覚えることが多すぎて大変です。でも、諦めずにコツコツ頑張りましょう。

動名詞の構文

前置詞＋動名詞

この形はよくでるので、しっかり覚えて下さい。

1 by ～ing ～することによって

例文：

We won the championship by practicing very hard.

(私たちは一生懸命練習することで優勝しました。)

2 for ～ing ～のために

例文：

Money is necessary for living.

(お金は生きるのに必要です。)

3 without ～ing ～しないで

例文：

She went away without saying a word.

(彼女は一言も言わずに立ち去りました。)

4 of ～ing ～の

例文：

He is fond of listening to music.

(彼は音楽をきくのが好きです。)

2. よくでる表現

これらの表現は暗記するしかありません。

1 look forward to ～ing

意味：「～するのを楽しみに待つ」

例文：

I am looking forward to seeing you.

(あなたに会えるのを楽しみに待っています。)

～ing には、動名詞ではなく名詞や代名詞が来ることもあります。

例文：

He is looking forward to dinner.

(彼は夕食を心待ちにしています。)

2 feel like ～ing

意味：「～したい気分になる」

例文：

She felt like crying last night.

(昨夜彼女は泣きたい気分になった。)

彼女に何があったのでしょうか。

3 cannot help ～ing

意味：「～せずにはいられない」

例文：

He could not help drinking last night.

(昨晚彼はお酒を飲まずにはいられなかった。)

またこの表現は、**cannot help but**＋動詞の原形でも表すことができます。

例文：

He and she could not help but sing songs last night.

(昨晚彼と彼女は歌を歌わずにはいられなかった。)

4 **There is no ～ing**

意味：「～できない」

例文：

There is no knowing what happened then.

(その時何が起きたのか知ることはできない。)

この表現を使う有名なことわざがあります。大学受験等で出題されますので、しっかりと覚えて下さい。

ことわざ：

There is no accounting for tastes.

(たで食う虫も好きずき。)

「人の好みは色々ある。」 という意味です。

5 **It's no good ～ing**

意味：「～してもむだである」

例文：

It's no good tracing the rumor.

(そのうわさを突き止めようとしてもむだです。)

この表現に別の言い方があります。It's no use ~ing です。「good → use」 になっただけです。そして、この表現を使う有名なことわざがあります。

例文：

It's no use crying over split milk.

(後悔先に立たず。)

「後で後悔しても遅い」 という意味です。

6 on ~ing

意味：「~するとすぐに」

例文：

On arriving at his home, he kept to the toilet.

(家に着くとすぐに彼はトイレに閉じこもった。)

またこの文は as soon as の文に書き換えられます。

例文：

As soon as he arrived at his home, he kept to the toilet.

(家に着くとすぐに彼はトイレに閉じこもった。)

意味はまったく同じです。

7 be used to ~ing

意味：「~に慣れている」

例文：

I am used to doing this kind of work.

(私はこの種の仕事に慣れています。)

またこの表現は used → accustomed に変えても OK です。

I am accustomed to doing this kind of work.

意味は同じです。

また、be 動詞ではなく get を使うと get used to ~ing (～に慣れる) の意味になります。

例文：

You will soon get used to doing this kind of work.

(あなたはすぐにこの種の仕事に慣れますよ。)

現在完了進行形

1. 現在完了進行形の用法

1 現在完了進行形の形

have been -ing

現在完了進行形は、現在完了と進行形 がひつついた形です。～ing の形になるのは、
read study wait write sing などの動作を表す動詞だけです。

例文：

I have been waiting for him since last night.

(私は彼を昨夜から待ち続けています。)

2 現在完了継続との違い

進行形になるのは、「動作を表す動詞」だけだと説明しましたが、これらの動詞が、現在完了の継続で使われることがあります。次の2つの文を見てください。

[継続]

I have studied French since 2000.

(私はフランス語を2000年から勉強しています。)

[進行形]

I have been studying French since this morning.

(私はフランス語を朝からずっと勉強しています。)

上の文は、2000年に思い立って、学校に通ったり、参考書を買ったりして、継続的に勉強していることを表します。

一方で下の文は、朝からぶっつづけで勉強していることを表します。

このように考えると、上の文は「勉強しているという状態」が続いていると見ることができます。よって、動作を表す動詞は継続と進行形の両方に使うことができます。

3 現在進行形との違い

現在進行形と現在完了進行形はよく似ています。例えば次の文を見て下さい。

[現在進行形]

I am reading this book.

(私はこの本を読んでいます。)

[現在完了進行形]

I have been reading this book.

(私はこの本をずっと読んでいます。)

これら2文の共通点と相違点は、
共通点…今現在本を読んでいる点
相違点…過去の時間を含むか否かの点
このようになります。

では次に少し視点を変えて、これらの文が答えになる質問を考えてみます。

進行形の「私はこの本を読んでいます。」が答えになる質問は、

⇒ 「今何してるの。」

現在完了進行形の「私はこの本をずっと読んでいます。」が答えになる疑問文は、

⇒ 「今まで何してたの。」

それぞれの質問をみると分かると思いますが、進行形が今その瞬間だけ、現在完了進行形が過去から今その瞬間までをそれぞれ表します。

結局、これら2文の一番の違いは、過去を含むかどうかです。現在完了にもありますが、現在完了は過去～現在にまたがる事を理解していれば OK です。

2. 現在完了進行形でよく使われる語

How long + 現在完了進行形の疑問文

「どのくらい～し続けていますか。」の意味になります。

例文：

How long have you been reading the book?

(あなたはどれくらいその本を読みつづけているのですか。)

答えは **for** と **since** どちらを使っても構いません。ただ単に「**For** ～.」や「**Since** ～.」と答えるだけでも OK です。

[答え方]

I have been reading it for eight hours.

(私はそれを8時間読み続けています。)

I have been reading it since last night.

(私はそれを昨夜から読み続けています。)

For eight hours.

(8時間です)

Since last night.

(昨夜からです)

複合関係代名詞

複合関係代名詞の用法

1 複合関係代名詞の種類

1. whoever 「だれでも」
2. whichever 「どれでも」
3. whatever 「なんでも」

の3つがあります。

2 関係代名詞として名詞節を導く用法

名詞節を導くことは関係代名詞と同じです。異なる点は、先行詞をすでに含んでいることです。それぞれ、

- whoever = anyone who
- whatever = anything that

に書き換え可能です。では1つずつ見ていきます。

○ whoever

例文：

We employ whoever wishes to work.
= We employ anyone who wishes to work.
(働きたい者は誰でも雇います。)

また、whoever が目的格になれば、whomever を使います。

例文：

You can give it to whomever you like.

= You can give it to anyone whom you like.
(君が好きな人だれにでもそれをあげていいよ。)

○ whichever

例文：

Please take whichever you want.
(どれでも好きなものを取って下さい。)

また、whichever には直後に名詞が来るパターンもあります。これは、「any + 名詞 + that」に書き換えられます。

例文：

I want to borrow whichever CDs you have.
= I want to borrow any CDs that you have.
(僕は君が持っている CD なら何でも借りたい。)

○ whatever

例文：

I'll try to get whatever you want.
= I'll try to get anything that you want.
(僕は君が望むものなら何でも手に入れてみせる。)

男前な台詞です。これは、whichever と同様に、whatever も時々直後に名詞が来ます。「any + 名詞 + that」で書き換え可能です。

例文：

I want to buy whatever things you have.
= I want to buy any things that you have.
(私は君が持っているものを何でもいいから買いたい。)

3 譲歩を表す副詞節を導く用法

複合関係副詞と同じ用法です。「～にせよ、～としても」の意味を表します。これも次のように書き換えが可能です。

1. whoever = no matter who
2. whichever = no matter which
3. whatever = no matter what

以下の例文を丸暗記して下さい。

例文：

Don't open the door whoever may come.
= Don't open the door no matter who will come.
(誰が来ようともそのドアは開けるな。)

Whichever you choose, you won't regret.
= No matter which you choose, you won't regret.
(どれを選んでも、君は後悔しないでしょう。)

I can't believe you whatever you may say.
= I can't believe you no matter what you may say.
(君が何を言おうとも、僕は君を信じられない。)

複合関係副詞

複合関係副詞の用法

1 複合関係副詞の種類

1. whenever 「いつでも」
2. wherever 「どこでも」
3. however 「どれほど」

の3つがあります。

2 関係副詞として名詞節を導く用法

名詞節を導くことは関係代名詞と同じです。異なる点は、先行詞をすでに含んでいることです。それぞれ、

- whenever = at any time when
- wherever = at (to) any place where

に書き換え可能です。however にはこの用法はありません。

- whenever

例文：

Whenever I saw you, you were hungry.
 = At any time when I saw you, you were hungry.
 (君に会った時はいつでも、君は腹を空かしていた。)

- wherever

例文：

I'll take you wherever you want to go.
 = I'll take you to any place where you want to go.
 (君が行きたい所はどこでも連れて行ってあげよう。)

3 譲歩を表す副詞節を導く用法

複合関係代名詞と同じ用法です。「～にせよ、～としても」の意味を表します。次のように書き換えが可能です。

1. whenever = no matter when
2. wherever = no matter where
3. however = no matter how

以下の例文を丸暗記して下さい。

例文：

We will welcome whenever you may come.
 = We will welcome no matter when you may come.
 (君がいつ来ても、我々は大歓迎だよ。)

Wherever you may go, I won't forget about you.
 = No matter where you may go, I won't forget about you.
 (君がどこに行こうとも、私は君のことは忘れない。)
 泣ける台詞ですね。

However fast you may run, you can't beat me.
 = No matter how fast you may run, you can't beat me.
 (君がどんなに速く走ろうとも、僕には勝てない。)

複合関係代名詞と複合関係副詞の区別をしっかりとつけて下さい。

原型不定詞

1. 原型不定詞とは

不定詞は、通常「to + 動詞の原形」の形をとりますが、to がない場合があります。この to のない不定詞を原形不定詞といいます。

原形不定詞をとる形は次の3つです。

1. 助動詞＋原形不定詞
2. 知覚動詞＋目的語＋原形不定詞
3. 使役動詞＋目的語＋原形不定詞

では、それぞれみていきます。

2. 原形不定詞の英作文

1 助動詞＋原形不定詞

will, can などの助動詞の直後では、原形不定詞になります。ただこれは、みなさん「助動詞＋動詞の原形」の形で学習していると思いますので、それほど気にしなくても OK です。

助動詞をまだ習っていない方は、原型不定詞よりもまず助動詞を学習することをお勧めします。

- ☐ can
- ☐ must
- ☐ may

2 知覚動詞＋目的語＋原形不定詞

知覚動詞とは、目や耳などの感覚から情報を得る動詞です。例えば、

- hear (聞く)
- see (見る)
- watch (見る) 等

のことです。では例文です。

「私は彼が逃走するのを見ました。」

という文。ここで注目して欲しいことは、see をいう動詞を使うことです。この動詞は知覚動詞なので原形不定詞をとります。従って、

⇒ I saw him run away.

これが正解です。下のように、to をつけないで下さい。

⇒× I saw him to run away.

ただ、知覚動詞が受け身の文になると to が必要です。

⇒ He was seen to run away by me.

(彼は私に逃げるのを見られました。)

また、原形不定詞を現在分詞にしても OK です。

I saw him run away.

= I saw him running away.

少しややこしいかもしれませんが、知覚動詞は原型不定詞でも現在分詞でもどちらでも OK です。ただし、受身になると **to** が必要であることを覚えて下さい。

例文：

[原型不定詞]

We heard a baby cry.

(私たちは赤ちゃんが泣いているのを聞きました。)

[現在分詞]

We heard a baby cry.

(私たちは赤ちゃんが泣いているのを聞きました。)

[受け身]

A baby was heard to cry by us.

(赤ちゃんは泣いているのを私たちに聞かれました。)

[原型不定詞]

I watched them play soccer.

(私は彼らがサッカーをしているのを見ました。)

[現在分詞]

I watched them playing soccer.

(私は彼らがサッカーをしているのを見ました。)

[受け身]

They was watched to play soccer by me.

(彼らは私にサッカーをしているのを見られました。)

3 使役動詞＋目的語＋原形不定詞

使役動詞とは「～させる」を意味する動詞です。例えば、**make, have, let** 等です。これらはすべて「～させる」の意味ですが、厳密には次の様に使い分けされます。

- **make** … (強制的に) ～させる
- **have** … (一般的に) ～させる
- **let** … (許可して) ～させる

文脈を把握して、正しい使役動詞を使えるようにして下さい。では例文です。

「私は彼女を家に帰らせました。」

という文。この文を **make** を使って英作します。**make** は使役動詞なので原形不定詞をとります。従って、

⇒ **I made her go home.**

これが正解です。下のように、**to** をつけないで下さい。

⇒× **I made her to go home.**

以上が使役動詞の基本的な形ですが、使役動詞によっては様々なルールがありますので、次で説明します。

4 **make** について

- 受け身にすると **to** が必要

例文：

[原形不定詞]

I made her go home.

(私は彼女を家に帰した。)

[受け身]

She was made to go home by me.

(彼女は私に家に帰らされた。)

- 原形不定詞ではなく状態を表す語がくることもある

例文：

He made me happy.

(彼は私を幸せにしてくれました。)

5 have について

○ 受け身にできない

例文：

[原型不定詞]

I had a dentist my tooth treat.

(私は歯医者さんに歯を治療してもらった。)

×[受け身]

×My tooth was had to treated by a dentist.

×(私の歯は歯医者さんに治療された。)

○ 「have＋目的語＋過去分詞」で「～してもらう」「～される」の意味になる

例文：

I had my car repaired.

(私は車を修理してもらいました。)

He had his brother solved the question.

(彼はお兄さんに問題を解いてもらいました。)

I had my wallet stolen.

(私は財布を盗まれました。)

6 get について

○ get+目的語（人）+to+原形不定詞

通常、get は「～を得る」や「～になる」の意味で使われますが、get にも使役の意味があります。そして、その使役の「～させる」で使う場合は to が必要です。

例文：

I get my sister to clean my room.

（私は妹に自分の部屋を掃除させます。）

ひどいお兄ちゃんですね。

○ get+目的語（物）+過去分詞

have と同じように、「～してもらう」「～させる」の意味もあります。その場合は、have と形が同じです。

例文：

I get my room cleaned by my sister.

（私は妹に自分の部屋を掃除してもらいました。）

お兄ちゃんに少し心の変化があったようです。

7 help について

○ help+目的語+（to）+不定詞

help にも使役の意味があります。その場合は to があっても原型不定詞でも構いません。

例文：

[原型不定詞]

I helped my sister clean her room.

(私は妹が部屋の掃除をするのを手伝いました。)

[to 不定詞]

I helped my sister to clean her room.

(私は妹が部屋の掃除をするのを手伝いました。)

どうやらお兄ちゃんは心を入れ替えたようです。

過去完了

1. 過去完了と現在完了の違い

過去完了は現在完了と同様に、「継続、経験、完了、結果」を表します。

違いは、現在完了が「過去～現在にまたがること」に対し、過去完了は「ある過去よりも前～ある過去にまたがること」です。

もっとわかりやすくするために日本語で表すと、

現在完了 → 「2年前～現在」

過去完了 → 「5年前～2年前」

このような感覚になります。

また、過去完了がある過去よりも前のことを表す場合、この用法を大過去といいます。
「大過去＝過去のもっと過去」と覚えておけばOKです。

2. 過去完了の英作文

過去完了を学習しようとしている方は、すでに現在完了は学んでいると思います。実は過去完了の英作文は、現在完了とほとんど同じです。現在完了では **have** を使いましたが、過去完了は **had** を使います。

[肯定文]

主語＋**had**＋過去分詞～.

[否定文]

主語＋**had not**＋過去分詞＋～.

[疑問文]

Had＋主語＋過去分詞＋～？

基本である「had＋過去分詞」を使って英作すれば問題ありません。参考までに、5つの例文を紹介しておきます。

例文：

[継続]

I had known nothing about it until you told it to me.

(君が僕に話してくれるまでそのことは知らなかった。)

[経験]

I had never been to China until I became 20.

(私は二十歳になるまで中国に行ったことがなかった。)

[完了]

When I came home, my brother had just finished his homework.

(僕が家に帰ったとき弟はちょうど宿題を終えたところだった。)

[結果]

The train had already started when I got to the station.

(私が駅に着いたとき電車はすでに発車していた。)

[大過去]

I sold some books that I had borrowed from him.

(私は彼から借りた何冊かの本を売った。)

大過去は時間の前後関係をはっきりさせる用法です。この文では、私が本を借りたのは、私が本を売ったよりも前です。

本を売った→過去

本を借りた→もっと過去 (大過去)

これら2つの行動(借りた、売った)の時間関係をはっきりさせるために、借りた(had borrowed)を過去完了で表しています。それにしても、私はとんでもない奴ですね…

3. 過去完了進行形

過去完了の継続が動作を表す時、動詞を進行形にします。現在完了進行形との違いは、**have** が **had** になることです。

現在完了進行形 → **have been -ing**

過去完了進行形 → **had been -ing**

例文：

I had been reading the book for an hour when my mother came home.

(母が帰ってきたとき、私は二時間ずっと本を読んでいた。)

関係代名詞の応用

1. 関係代名詞と前置詞

関係代名詞が前置詞の目的語になる場合、

関係代名詞＋～＋前置詞

前置詞＋関係代名詞＋～

このどちらの語順でも構いません。例えば、

例文：

She is Akiko.

(彼女はアキコです。)

I talked with her yesterday.

(私は彼女と昨日話しました。)

この2文を関係代名詞を使って1文にした場合、

[関係代名詞＋～＋前置詞]

She is Akiko who I talked with yesterday.

[前置詞＋関係代名詞＋～]

She is Akiko with whom I talked yesterday.

このように、前置詞をそのままの場所に置いていても、関係代名詞の直前に持ってきてても OK です。

ただ、先行詞が人で目的格の場合は、**who** と **whom** のどちらでも使えますが、上の文のように、

「関係代名詞＋～＋前置詞」の場合→**who**

「前置詞＋関係代名詞＋～」の場合→**whom**

このようにするのが一般的です。

2. 関係代名詞の **what**

1 **what** の意味

関係代名詞 **what** は、「～こと」「～もの」の意味になります。また、**who** や **which** は先行詞を必要としますが、関係代名詞 **what** は、**what** 自身が「**the thing(s)**」という先行詞を含んでいるので、先行詞は必要ありません。

what = 先行詞不要

さらに、「**the thing(s)+which**」に書き換えることができます。

what = **the thing(s)+which**

では例文で確認します。

例文：

「私が欲しいものはステレオコンポです。」

What I want is a new component stereo.

The thing which I want is a new component stereo.

このように、関係代名詞 **what** は先行詞が不要で、「**the thing(s)+which**」に書き換えられることを覚えて下さい。

2 what の用法

関係代名詞 **what** に導かれる節は名詞節なので、「主語、補語、目的語」のいずれにもなります。

ではいつもと少し変えて、物語形式の例文で学習します。

題名：「彼とペン」

[主語になるパターン]

例文：「彼がなくしたのはペンです。」

What he has lost is his pen.

(The thing which he has lost is his pen.)

[補語になるパターン]

例文：「これが私の探していたものです。」

This is what I'm looking for.

(This is the thing which I'm looking for.)

この補語になる場合は、1 で学んだように前置詞を前に出しても OK です。

This is what I'm looking for.

= This is for what I'm looking.

This is the thing which I'm looking for.

= This is the thing for which I'm looking.

[目的語になるパターン]

例文：「持ち物には名前を書かないといけませんよ。」

You must name what you have.

(You must name the things which you have.)

ペンが見つかってよかったです。

3 what の慣用表現

関係代名詞 **what** を使った表現はたくさんあります。よくでるものを紹介しますので、学習に役立ててください。

○ what you call, what is called

意味： 「いわゆる」

直後には名詞か形容詞がきます。コンマは不要です。

例文：

He is what you call a walking dictionary.

(彼はいわゆる歩く辞書だ。)

○ What with A and (what with) B

意味： 「A やら B やらで」

カッコの (what with) は省略可能です。ほとんどの場合文頭で使用し、直後にコンマを置きます。そして、悪い意味でよく使用されます。

例文：

What with loneliness and anger, he shouted.

(寂しさやら怒りやらで、彼は叫んだ。)

○ what is + 比較級

意味： 「さらに～」

文頭、文中のどこでも用いられます。直前か直後に、文中で使用する場合は両方にコンマが必要です。

例文：

What is worse, it begins to rain.

(さらに悪いことに、雨が降り出した。)

He is rich, and what is more, he is smart.

(彼はお金持ちだ、その上、頭がいい。)

○ A is to B what C is to D

意味： 「A の B に対する関係は、C の D に対する関係と同じ。」

「日本語でも意味がわからない」という方がいるかもしれませんが、意外とよく出題されます。例文を見れば、意味がわかると思いますので、例文で暗記して下さい。

例文：

Eating is to man what fueling to cars.

食事の人に対する関係は、給油の車に対する関係と同じ。

○ what+代名詞+used to be

意味： 「以前の～」

この表現はよく見かけます。必ずマスターして下さい。

例文：

I'm not what I used to be.

(以前の俺ではないぞ。)

関係代名詞の用法

1. 関係代名詞の2つの用法

関係代名詞には以下の2つの用法があります。

1. 制限用法（限定用法）
2. 非制限用法（継続用法）

それぞれの特徴をしっかりとつかみ、区別できるようになって下さい。

2つの用法を詳しく解説する前に、まずは次の2つ文を見比べて下さい。

「彼は僕の40歳の父です。」

「彼は僕の父で40歳です。」

一見すると両方とも普通の文に見えますが、実は上の文だと、

「彼は僕の40歳の父です。」

→ では50歳の父もいるの？

このように、父が何人もいることになってしまいます。一方、下の「彼は僕の父で40歳です。」の文は何の問題もありません。お父さんは1人です。

これらの2文をそれぞれ英語にするとこうなります。

【制限用法（限定用法）】

「彼は僕の40歳の父です。」

He is my father who is forty years old.

【非制限用法（継続用法）】

「彼は僕の40歳の父です。」

He is my father, who is forty years old.

このように、非制限用法はコンマ(,)を付けて表します。それでは、2つの用法を表にまとめます。

	制限用法	非制限用法
役割	先行詞の範囲を制限する。	先行詞を補足説明する。
コンマ	×	○
関係代名詞	who, which, that の3種類。どれでも可。	who, which の2種類。 that は不可。
省略	目的格のみ省略可。	すべて省略不可。

2. 非制限用法（継続用法）の意味と特徴

非制限用法は文の後半に使われたり、中間に挿入する形でも使われたりします。また、使われる位置によって意味も少し違ってきます。後半と中間で使われた場合をチェックしていきます。

1 文の後半にある非制限用法

特徴は、

and, because, but＋主語＋動詞～

に書き換えられることが多いことです。

例文：

I bought a book, which is written by Tolstoy.

= I bought a book, and it is written by Tolstoy.

(私は本を買いました、それはトルストイによって書かれた本です。)

I like him, who is kind to everyone.

= I like him, because he is kind to everyone.

(私は彼が好きだ、なぜなら彼はみんなに優しいからだ。)

I went to the zoo to see pandas, which you will get to like.

= I went to the zoo to see pandas, and you will get to like it.

(私は動物園にパンダを鑑賞しに行きました、あなたはきっとそれが好きになりますよ。)

どうですか？非制限用法の訳が分からなければ、とりあえず and (そして) で訳してみてください。たいていは and でいけると思います。

2 文の中間にある非制限用法

特徴は、

and, because, but + 主語 + 動詞～

に書き換えられることが多いことです。後半にある文にくらべて、because の頻度が高いです。なお非制限用法は、中間にある場合が圧倒的に多いです。念入りに学習して下さい。

例文：

I returned the goods, which were defective, to the shop.

= I returned the goods, because they were defective, to the shop.

(私は商品を不良品だったので店に返品した。)

My father, who lives in Hokkaido, showed me around Sapporo.

= My father, and he lives in Hokkaido, showed me around Sapporo.

(私の父は、北海道に住んでいるが、札幌周辺を案内してくれました。)

使いこなせると非常に便利な表現です。日記等をつけるとすぐに感覚がつかめると思います。

3. 制限用法と非制限用法の落とし穴

この2つの意味の違いは、「意味の違いを詳しく述べなさい。」というような形でよくテストに出題されます。

なぜなら同じ文でも、制限用法と非制限用法で「意味がほとんど変わらない文」と「大幅に変わる文」があるからです。

意味が変わらないかどうかは、2で学んだ書き換えを做的是っきりします。

○ 意味がほとんど変わらないパターン

例文：

[制限用法]

I give him a CD which I bought yesterday.

(私は昨日買った CD を彼にあげます。)

[非制限用法]

I give him a CD, which I bought yesterday.

[書き換え]

I give him a CD, and I bought it yesterday.

(私は彼に CD をあげます、そしてそれは昨日買ったものです。)

日本語訳が少し違いますが、内容は一緒です。

○ 意味が大幅に変わるパターン

例文：

[制限用法]

In the class there were few students who had PS2.

(クラスには、PS2 を持っている生徒はほとんどいなかった。)

[非制限用法]

In the class there were few students, who had PS2.

[書き換え]

In the class there were few students, but they had PS2.

(クラスにはほとんど生徒はいなかった、しかしその全員が PS2 を持っていた。)

これらの文は全く意味が違います。制限用法と非制限用法の意味の違いを問われたら、まずは書き換えをしてから考えるようにして下さい。

4. 制限用法（限定用法）の意味と特徴

制限用法（限定用法）とは、皆さんが中学で習う関係代名詞のことです。ここでの説明は省略させていただきます。詳しくは関係代名詞をご覧ください。）

関係副詞

1. 関係副詞とは？

1 関係代名詞との違い

関係副詞は関係代名詞と似ています。しかし少しだけ相違点があるので、まずはその相違点から解説したいと思います。

すこしややこしいので、わかりやすくするために数学の証明の要領で違いを説明します。では、下の3つの形をよく見てください。特に A～C の文に注目です。

[関係代名詞の文]

例文：

That is a tall building.
 + I build it.
 = That is a tall building which I build.(A)
 (あれは私が建てた高いビルです。)

[関係代名詞+前置詞の文]

例文：

That is a tall building.
 + I live in it.
 = That is a tall building which I live in.
 (あれは私が住んでいる高いビルです。)

これは関係代名詞が前置詞の目的語になっているので、

「前置詞+関係代名詞」
 に書き換えられます。

= That is a tall building in which I live.(B)

この書き換えが分からない方は関係代名詞の応用でチェックして下さい。

[関係副詞の文]

例文：

That is a tall building.

+ I live in it.

= That is a tall building.

+ I live there. (there = in it)

= That is a tall building where I live.(C)

(あれは私が住んでいる高いビルです。)

まずは関係代名詞の文 A を見てください。元々関係代名詞は2文をくっつける働きがあるので、接続詞の役割を果たしています。さらに、代名詞の代わり（A の文では it）にもなっているので、次のことがわかります。

関係代名詞＝接続詞＋代名詞

次に関係副詞の文 C を見てください。2文をくっつけて、さらに副詞（C の文では there）の代わりにもなっているので、次のことがわかります。

関係副詞＝接続詞＋副詞

そして最後に B、C を見比べて下さい。それぞれ元々全く同じだった2文をくっつけて、意味が同じの文が出来上がっています。よって、in which と where は全く同じ意味です。これからは次のことがわかります。

前置詞＋関係代名詞＝関係副詞

以上のことから、

- 関係代名詞 = 接続詞＋代名詞
- 関係副詞 = 接続詞＋副詞
- 関係副詞 = 前置詞＋関係代名詞

これらの働きをしていることがわかります。そしてこれらが、関係代名詞との違いです。

2 関係副詞と先行詞の種類

関係代名詞と同様に、先行詞があります。関係副詞の先行詞はある程度決まっています。まずは下の表を暗記して下さい。

先行詞	関係副詞	前置詞＋関係代名詞
場所 (place, station 等)	where	at, in, on, to+which
時 (time, day 等)	when	
理由 (the reason)	why	for which
方法 (the way)	how	in which

3 用法

関係副詞は、読んで字のごとく副詞の働きをしますので、主語・補語・目的語にはなりません。

2. 関係副詞の英作文

「関係副詞＝前置詞＋関係代名詞」の関係を知っていれば、それほど難しくありません。

1 where (場所)

先行詞	関係副詞	前置詞＋関係代名詞
場所 (place, station 等)	where	At, in, on, to+which

例文：

I can't remember the house.

I was born in it.

この2文を1つにしてみます。

- まずは関係代名詞で

I can't remember the house which I was born in.

- 前置詞 in を関係代名詞の直前に持っていく

I can't remember the house in which I was born.

- 関係副詞＝前置詞＋関係代名詞なので

I can't remember the house where I was born.

(自分が生まれた家を思い出せない。)

これで完成です。先行詞が場所 (the shop) なので、関係副詞 where を使います。

また別の考え方ですが、例文の「in it」は、副詞の「there (そこで)」に置き換えられるので、

- in it を there に置き換える

I can't remember the house.

I was born there.

- 関係副詞＝接続詞＋副詞なので

I can't remember the house where I was born.

このように考えて英作しても OK です。いずれにせよ、自分がやりやすい考え方で、関係副詞の英作文ができれば OK です。

2 when (時)

先行詞	関係副詞	前置詞＋関係代名詞
時 (time, day 等)	when	at, in, on, to＋which

例文：

A festival will be held in June.

I was born in June.

この2文を1つにしてみます。

○ まずは関係代名詞で

A festival will be held in June which I was born in.

○ 前置詞 in を関係代名詞の直前に持っていく

A festival will be held in June in which I was born.

○ 関係副詞＝前置詞＋関係代名詞なので

A festival will be held in June when I was born.

(祭りは私が生まれた6月に行われるようです。)

これで完成です。先行詞が時 (June) なので、関係副詞 when を使います。

3 why (理由)

先行詞	関係副詞	前置詞＋関係代名詞
理由 (the reason)	why	for which

例文：

This is the reason.

He didn't come for it.

この2文を1つにしてみます。

- まずは関係代名詞で

This is the reason which he didn't come for.

- 前置詞 for を関係代名詞の直前に持っていく

This is the reason for which he didn't come.

- 関係副詞＝前置詞＋関係代名詞なので

This is the reason why he didn't come.

(これが彼が来なかった理由です。)

これで完成です。先行詞が理由 (the reason) なので、関係副詞 why を使います。

4 how (方法)

先行詞	関係副詞	前置詞＋関係代名詞
方法 (the way)	how	in which

例文：

This is the way.

He went to Osaka in a car.

この2文を1つにしてみます。

- まずは関係代名詞で

This is the way which he went to Osaka in.

- 前置詞 in を関係代名詞の直前に持っていく

This is the way in which he went to Osaka.

- 関係副詞＝前置詞＋関係代名詞なので

This is the way how he went to Osaka.

(このようにして彼は大阪に行きました。)

これで完成です。先行詞が方法 (the way) なので、関係副詞 how を使います。

ただこの場合は、先行詞の「the way」、もしくは関係副詞の「how」を省略することがほとんどです。

[the way を省略]

This is how he went to Osaka.

[how を省略]

This is the way he went to Osaka.

以上が4つの関係副詞の説明です。ちょっと長い解説になってしまいましたが、案外と関係代名詞よりも楽に使いこなせると思います。

3. 関係副詞の非制限用法

関係代名詞の用法に制限用法と非制限用法があるように、関係副詞にもあります。関係副詞の非制限用法は「when」と「where」のみあります。制限用法と非制限用法の詳細は関係代名詞の用法をご覧ください。

1 when → and then に置き換えられる

非制限用法の when は and then に書き換えることができます。

例文：

[非制限用法]

I came home at night, when my wife opened the door.

(私は夜中に家に帰ったが、その時妻がドアを開けた。)

[and then の書き換え]

I came home at night, and then my wife opened the door.

(私は夜中に家に帰ったが、その時妻がドアを開けた。)

このように書き換えることが可能です。

なお、この非制限用法を制限用法に書き換えてみると、

[制限用法]

I came home at night when my wife opened the door.

(私は妻がドアを開けた夜中に家に帰った。)

このように、意味がよくわからない文章になってしまいます。非制限用法と制限用法では意味が異なる場合があることを覚えておいて下さい。(※詳細は関係代名詞の用法をご覧ください。)

2 where → and there に置き換えられる

非制限用法の **where** は **and there** に書き換えることができます。

例文：

[非制限用法]

I went to the park, where I saw a suspicious person.

(私は公園に行き、そこで不審な人物を見た。)

[**and there** の書き換え]

I went to the park, and there I saw a suspicious person.

(私は公園に行き、そこで不審な人物を見た。)

このように書き換えることが可能です。

なお、この非制限用法を制限用法に書き換えてみると、

[制限用法]

I went to the park where I saw a suspicious person.

(私は不審な人物を見た公園に行った。)

1 の例文と違い、意味は通じます。しかしこの場合は、時間の前後をはっきりするために大過去を使うほうがいいです。

[大過去]

I went to the park where I had seen a suspicious person.

(私は不審な人物を見た公園に行った。)

大過去の詳細は過去完了をご覧ください。

仮定法

1. 仮定法とは？

仮定法は、if を使って「ありえないこと」を表す言い方です。

例文：

If I went there, I would help them.

(もし僕がそこに行ったら彼らを手伝ってあげるのに。)

今のことを言っているのに、過去形になっているのがわかりますか？過去形にすることが、仮定法のカギです。また、if を使わない言い方（直説法）もあります。詳しくは専門のページ（仮定法過去、仮定法過去完了）で紹介しています。

2. 仮定法の種類

仮定法には、仮定法過去と仮定法過去完了があります。それぞれ専門のページで詳しく解説していますので、一緒に勉強を始めましょう。

仮定法過去

1. I wish の英作文

仮定法過去は、現在の事実と反対のことを言う表現です。仮定法過去の英作文は2種類があります。そのどちらも動詞の過去形を使いますが、現在のことを表しています。その1つが **I wish ～** です。

1 **I wish**＋主語＋動詞の過去形～.

例文：

I wish I were a bird.
(もし私が鳥だったらなあ。)

どっかの CM で聞いた台詞ですが…

この **I wish ～** は願望を表す言い方です。では次に、皆さんが1度は言ったことのある台詞を紹介します。

例文：

I wish I were rich.
(金持ちだったらなあ。)

さて例文を2つ見ましたが、疑問を持ったところがあったですか？実は、**I** なのに **were** を使っています。基本的に、仮定法では **be** 動詞はすべて **were** です。ただし、口語（話し言葉）では **was** も使われます。

2 **I wish**＋主語＋助動詞の過去形＋動詞の原形～.

1 とあまりかわりませんが、助動詞の過去形を使うパターンです。たいていは **can** の過去形 **could** を使います。

例文：

I wish I could fly.

(空を飛べたらなあ。)

夢ではよくみますが、現実で飛んでいる人はいません。ではもう 1 つ紹介します。

例文：

I wish I could swim to the bottom of the sea.

(海底まで泳げたらなあ。)

息がもしませんし体がつぶれるので、現実的ではありません。ですから仮定法を使います。

2. if の英作文

wish とは別の、もう 1 つの仮定法過去です。

1 If+主語+動詞の過去形~,主語+助動詞の過去形+動詞の原形~.

wish は願望だけを表しましたが、この形では実際に何をするのか (何をしたいのか) も言っています。例文をみて下さい。

例文：

If I were a bird, I would fly to the moon.

(もし私が鳥だったら、月まで飛んでいくだろうなあ。)

この形でよく使う助動詞の過去形は 4 つです。

- would → ~だろうなあ
- could → ~できるのになあ
- should → ~するのになあ
- might → ~だろうなあ、~してもよいのに

この 4 つを覚えれば対応できますので、必ず覚えて下さい。では、これらの例文を紹介します。

例文：

If I were young, I would quit my job.

(もし若ければ、仕事をやめるだろうなあ。)

If they practiced hard, they could win the game.

(もし彼らが必死に練習すれば、試合に勝てるのになぁ。)

If he had more power, he should get the universe.

(もし彼がもっと権力を持てば、宇宙を手に入れるだろう。)

If you had time, you might call on me.

(時間があるのなら、私を訪ねてもよいのに。)

2 If + 主語 + 助動詞の過去形 + 動詞の原形 ~ , 主語 + 助動詞の過去形 + 動詞の原形.

これは助動詞の過去形が2つ使われる形です。

例文：

If I could run fast, I would be a sprinter.

(もし私が速く走れたら、短距離走者になるのになぁ。)

助動詞が増えて難解だと思いますが、逆に助動詞があるほうが理解しやすいと思います。例文をたくさん覚えて、試験で役立てて下さい。

3. 仮定法過去→直説法の書き換え

たまに出題されますので、覚えて下さい。注意点は、直説法では現在形で表すことです。

1 I wish ~ → I am sorry that ... not ~

これは訳し方に注意して下さい。「~でなくてごめんなさい」と訳さないようにして下さい。

例文：

I wish I were a bird.

→ I am sorry that I'm not a bird.

(もし私が鳥だったらなぁ。)

2 If ~, ... = Because ~ not ~, ... not ...

これは比較的考えやすいのではないのでしょうか。直訳しても、おおよその意味はつかめると思います。

例文：

If I had one more eraser, I could lend it to you.

→ Because I don't have one more eraser, I can't lend one to you.

(もし消しゴムをもう 1 つ持っていたら、君に貸せるのになあ。)

仮定法過去完了

1. I wish の英作文

仮定法過去完了は、過去の事実と反対のことを言う表現です。後悔している言い方ともとらえられます。仮定法過去完了も2種類があります。基本的な構文は、仮定法過去と同じです。

1 I wish + 主語 + had + 過去分詞～.

例文：

I wish I had known about it.

(もしそれについて知っていたらなあ。)

この文は、実際は知らなかったことを意味します。ではもう1つ例文です。

例文：

I wish I had been there.

(そこにいたらなあ。)

この文は、実際はそこにいなかったことを意味します。

2 I wish + 主語 + 助動詞の過去形 + have + 過去分詞～.

1とあまりかわりませんが、助動詞の過去形を使うパターンです。たいていは **can** の過去形 **could** を使い「**could have** ～」の形になります。

例文：

I wish I could have flown.

(空を飛べていたらなあ。)

このように、仮定法過去完了は **I wish** ～の仮定法過去に **had** や **have** が加わっただけです。

2. if の英作文

wish とは別の、もう 1 つの仮定法過去完了です。

If + 主語 + had + 過去分詞～, 主語 + 助動詞の過去形 + have + 過去分詞～.

wish は願望だけを表しましたが、この形では実際に何をしたのか（何をしなかったのか）も言っています。例文をみて下さい。

例文：

If I had known about it, I could have advised you.

（もしそれについて知っていたら、君に助言していたのに。）

仮定法過去と同じく、よく使う助動詞は 4 つです。

- would have → ～だったろうなあ
- could have → ～できたのになあ
- should have → ～したのになあ
- might have → ～だったろうなあ、～してもよかったのに

この 4 つを覚えれば対応できますので、必ず覚えて下さい。では、これらの例文を紹介します。

例文：

If I had been young, I would have quitted my job.

（もし若かったら、仕事をやめていただろうなあ。）

If they had practiced hard, they could have won the game.

（もし彼らが必死に練習していたら、試合に勝っていたのになあ。）

If he had had more power, he should have gotten the universe.

（もし彼がもっと権力を持っていたら、宇宙を手に入れていただろう。）

If you had had time, you might have called on me.

（時間があつたのなら、私を訪ねてもよかったのに。）

3. 仮定法過去完了→直説法の書き換え

たまに出題されますので、覚えて下さい。注意点は、直説法では過去形で表すことです。

1 I wish ~ → I am sorry that ... not ~

これは訳し方に注意して下さい。「~でなくてごめんなさい」と訳さないようにして下さい。

例文：

I wish I had known about it.

→ I am sorry that I did not know about it.

(そのことを知っていたらなあ。)

2 If ~, ... = Because ~ not ~, ... not ...

これは比較的考えやすいのではないのでしょうか。直訳しても、おおよその意味はつかめると思います。

If I had had one more eraser, I could have lent it to you.

→ Because I didn't have one more eraser, I couldn't lend one to you.

(もし消しゴムをもう 1 つ持っていたなら、君に貸せたのになあ。)

強調構文

1. 強調構文の英作文

文には「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「どうする」などの要素がありますが、これらはすべて強調することができます。

1 It is A that B

この形で「いつ」「どこで」「誰が」「何を」の4つを強調する文ができます。実際の英作文では、Aの部分に強めたい語を入れます。be動詞の時制には注意して下さい。では例文です。

例文：

Mike bought a bike at the store last week.

(マイクは先週お店で自転車を買いました。)

この文には、

1. 「いつ」 … 先週
2. 「どこで」 … お店
3. 「誰が」 … マイク
4. 「何を」 … 自転車

この4つの要素がすべて含まれています。では、それぞれの要素を強調する文を「It is A that B」の形にあてはめて英作してみます。

○ 「いつ」を強調

It was last week that Mike bought a bike at the store.

(マイクがお店で自転車を買ったのは先週だった。)

○ 「どこで」を強調

It was at the store that Mike bought a bike last week.

(マイクが先週自転車を買ったのはお店だった。)

どことなく間抜けに聞こえる文です。

○ 「誰が」を強調

It was Mike that bought a bike at the store last week.

(先週お店で自転車を買ったのはマイクだった。)

○ 「何を」を強調

It was a bike that Mike bought at the store last week.

(マイクが先週お店で買ったのは自転車だった。)

このように、「It is A that B」の A の部分に強めたい語を持っていけば OK です。

2 It is because A that B

この形で「なぜ」を強調する文ができます。実際の英作文では、A の部分に強めたい語を入れます。日本語に訳す時は「BなのはAだからだ。」として下さい。

では実際に、下の例文を「It is because A that B」の形にあてはめて、「なぜ」を強調する文にしてみます。

例文：

The game was put off because it rained heavily.

(強く雨が降っていたので、試合は延期された。)

○ 「なぜ」を強調

It is because it rained heavily that the game was put off.

(試合が延期されたのは、強く雨が降っていたからだ。)

3 助動詞 do

「どうする」を強調するには、助動詞の「do」を使います。実際の英作文では、助動詞「do」を時制に注意して動詞の直前に置けば OK です。そして必ず、助動詞「do」の次に来る動詞は原形にします。

では実際に「どうする」を強調した例文を英作してみます。

例文：

I ride on my bike.

(私は自分の自転車に乗ります。)

○ 「どうする」を強調

I do ride on my bike.

(私は自分の自転車に乗りますよ。)

例文：

He uses a new book.

(彼は新しい本を使います。)

○ 「どうする」を強調

He does use a new book.

※原形 use にすること

(彼は新しい本を使います。)

例文：

You sang an old song.

(君は古い歌を歌った。)

○ 「どうする」を強調

You did sing an old song.

※原形 sing にすること

(君は古い歌を歌った。)

2. 関係代名詞を使った強調構文

11 で解説している「いつ」「どこで」「誰が」「何を」を強調する「It is A that B」の that は、関係代名詞や関係副詞に書き換えることができます。それぞれ、

- 「いつ」 … 関係副詞 when
- 「どこで」 … 関係副詞 where
- 「誰が」 … 関係代名詞 who
- 「何を」 … 関係代名詞 which

に置き換えることが可能です。では 11 の例文をそれぞれ書き換えてみます。

- 「いつ」は that → when に

It was last week that Mike bought a bike at the store.

= It was last week when Mike bought a bike at the store.

(マイクがお店で自転車を買ったのは先週だった。)

- 「どこで」は that → where に

It was at the store that Mike bought a bike last week.

= It was at the store where Mike bought a bike last week.

(マイクが先週自転車を買ったのはお店だった。)

- 「誰が」は that → who に

It was Mike that bought a bike at the store last week.

= It was Mike who bought a bike at the store last week.

(先週お店で自転車を買ったのはマイクだった。)

- 「何を」は that → which に

It was a bike that Mike bought at the store last week.

= It was a bike which Mike bought at the store last week.

(マイクが先週お店で買ったのは自転車だった。)

3. その他の強調

1 名詞を強調

名詞を強調する場合は、名詞の直前に **very** を置きます。他に **very** は最上級を強める働きもあります。

例文：

I bought this very pen.

(僕はまさにこのペンを買った。)

2 代名詞を強調

代名詞を強調する場合は、文末か代名詞の直後に再帰代名詞を置きます。

例文：

He made our house himself.

(彼が我々の家を作った。)

未来完了

1. 未来完了とは？

未来完了は「現在～ある未来にまたがること」を表し、現在完了と同様に、「継続、経験、完了、結果」を意味します。

そして「ある未来」を指定するために、

by ～ … ～までには
by the time ～ … ～するまでには
if ～ … もし～ならば

このような表現が用いられることが多いです。

2. 未来完了の英作文

未来完了は高校で学習する単元なので、今このページをご覧の皆さんは、すでに現在完了を学んでいると思います。実は未来完了の英作文は、現在完了とほとんど同じです。現在完了では **have** を使いましたが、未来完了は **will have** を使います。

[肯定文]

主語＋**will have**＋過去分詞～.

[否定文]

主語＋**will not have**＋過去分詞＋～.

[疑問文]

Will＋主語＋**have**＋過去分詞＋～？

基本である「**will have**＋過去分詞」を使って英作すれば問題ありません。参考までに、4つの例文を紹介しておきます。

例文：

[継続]

I will have lived here for 20 years by next month.

(来月でここに20年住んでいることになる。)

[経験]

If you go to USJ again, you will have been there 10 times.

(もしまたUSJに行ったら、君は10回行ったことになる。)

[完了]

By the time I come home, my mother will have cooked dinner.

(私が帰るまでにはお母さんが夕食を作り終えているだろう。)

[結果]

If you play games, you will have failed the exam.

(もしゲームをしたら、君は試験に落ちるだろう。)

3. 未来完了進行形

未来完了の継続が動作を表す時、動詞を進行形にします。現在完了進行形との違いは、**will** が必要なことです。

現在完了進行形 → have been -ing

未来完了進行形 → will have been -ing

例文：

By ten thirty, we will have been watching TV for five hours.

(10時30分で、私たちは5時間テレビをずっと見ていることになる。)

無生物主語

1. 無生物主語とは？

無生物主語とは、その名の通り、生物でないものが主語になることです。例えば、

例文：

The heavy rain forced us to stay at home.

(大雨の為、我々は家に居るしかなかった。)

この文の主語は「大雨 (The heavy rain)」です。もちろん、雨は生きていません。この様な生物ではない主語を無生物主語といいます。

またこの文を直訳すると、「大雨が我々を家に居ることを強いた。」となり、不自然です。

だから、この文では「我々は」を主語にして自然な日本語になるように訳しています。無生物主語の文は、自然な日本語になるように訳して下さい。

2. 無生物主語の用法

大きく分けて3つの用法があります。

1 原因・理由を表す場合

訳し方： 「～のために、～の理由で」

例文：

An acute stomachache prevented me from going out.

(強烈な腹痛のため、私は外出できなかった。)

経験したことの無い汗が出ることありますよね。

例文：

My insensitive statement made Merosu furious.

(私の無神経な発言でメロスは激怒した。)

なんとなくどこかで聞いた台詞です。

2 条件・手段・方法を表す場合

訳し方： 「～すれば、～によって」

例文：

Ten hours' walk will bring you to Osaka.

(10時間歩けば大阪に着きますよ。)

やたらしんどいですね。

例文：

That bus will take you to Osaka in five minutes.

(あのバスに乗れば5分で大阪に着きますよ。)

やたら速いバスですね。

例文：

Fifty thousand yen will enable you to take that bus.

(5万円あればあのバスに乗れますよ。)

やたら高いバスですね。

結局この人はどうやって大阪まで行ったのでしょうか…

3 時間を表す場合

訳し方： 「～経てば、～になると」

例文：

Two more years will make you forget about her.

(後2年もすれば彼女のことを忘れるよ。)

この例文で使われている **make** は使役動詞です。試験ではよく出題されますので、わからない方は使役動詞のページでチェックして下さい。

どうでしたか？以上が無生物主語の3つの用法です。無生物主語はよく出題されますし、使いこなせるとかなり役に立ちます。例文を覚えて感覚をつかんで下さい。

3. 無生物主語の書き換え

無生物主語の文は、すべて書き換えが可能です。方法は、目的語を主語にして、無生物主語を適切な副詞節にすれば(適切な言葉を加えれば) **OK** です。では実際に、2の例文をそれぞれ書き換えてみます。

1 原因・理由を表す場合

使用する接続詞： **because**

例文：

An acute stomachache prevented me from going out.

→ She couldn't go out because she had an acute stomachache.

(強烈な腹痛のため、私は外出できなかった。)

この例文では、「外出できなかった」わけですから、**because** と共に **couldn't** を付け加えています。

例文：

My insensitive statement made Merosu furious.

→ Merosu got furious because of my insensitive statement.
(私の無神経な発言でメロスは激怒した。)

この例文では、「メロスが怒った」ので、because と共に got furious を使っています。

2 条件・手段・方法を表す場合

使用する接続詞： if

例文：

Ten hours' walk will bring you to Osaka.
→ If you will walk for ten hours, you will arrive at Osaka.
(10時間歩けば大阪に着きますよ。)

この例文では、「大阪に着く」わけですから、if と共に arrive を付け加えています。

例文：

That bus will take you to Osaka in five minutes.
→ If you take that bus, you will go to Osaka in five minutes.
(あのバスに乗れば5分で大阪に着きますよ。)

上の例文と同様に、この例文も「大阪に着く」なので arrive で表せますが、今回は if と共に go を使っています。

例文：

Fifty thousand yen will enable you to take that bus.
→ If you have fifty thousand yen, you will be able to take that bus.
(5万円あればあのバスに乗れますよ。)

この例文では、「バスに乗れる」わけですから、if と共に be able to を使っています。

3 時間を表す場合

使用する接続詞： **when**

例文：

Two more years will make you forget about her.

→ When two more years pass, you will have forgotten about her.

(後2年もすれば彼女のことを忘れるよ。)

この例文では、「後2年が経つ」わけですから、**when** と共に **pass** を付け加えています。また、未来完了の文になっています。

このように、適切な副詞節にすれば書き換えができます。ただ、上記で使用した単語は一例ですので、意味に合う単語を選択すればそれで OK です。

4. 無生物主語の文でよく使う動詞

無生物主語の文で使う動詞はある程度決まっています。1～3までに使用した動詞以外で、よく使う動詞を紹介します。

○ **remind** 人 of ～

意味： 「人に～を思い出させる」

例文：

This notebook reminds me of my school days.

(私はこのノートを見ると学生時代を思い出す。)

○ **permit (allow)** 人 to ～

意味： 「人に～を許可する」

例文：

Cell phones are not permitted in this building.

(この建物内で携帯電話は禁止されています。)

○ keep (prevent) 人 from -ing

意味： 「人が～するのを妨げる」

prevent の例文は 2. 1 や 3. 1 にありますが、keep でも同じ意味になります。

例文：

An acute stomachache kept me from going out.

= An acute stomachache prevented me from going out.

(強烈な腹痛のため、私は外出できなかった。)

○ save

意味： 「省く」

例文：

A stitch in time saves nine.

(転ばぬ先の杖。)

※ことわざ

○ show

意味： 「示す」

例文：

The map showed me to the station.

(私は地図を見て駅までたどり着いた。)

○ surprise

意味： 「驚かす」

例文：

The news surprised me.

(私はそのニュースに驚いた。)

surprise を使った熟語に「be surprised at～ (～に驚く)」があります。本来 surprise は「驚かす」の意味なので、この熟語は受け身にすることで「驚く」の意味になっています。

○ cost

意味： 「費用がかかる」

例文：

The car cost me one million yen.

(その車は100万円かかった。)

○ please

意味： 「喜ばせる、満足させる」

例文：

The CD pleases my ear.

(そのCDは耳を満足させてくれる。)

please を使った熟語に「be pleased with～ (～に喜ぶ、～に満足する)」があります。本来 please は「喜ばせる、満足させる」の意味なので、この熟語は受け身にすることで「喜ぶ、満足する」の意味になっています。

○ satisfy

意味： 「満足させる」

例文：

A glass of water satisfied my body.

(コップ一杯の水で満足だった。)

satisfy を使った熟語に「be satisfied with～(～に満足する)」があります。本来 satisfy は「満足させる」の意味なので、この熟語は受け身にすることで「満足する」の意味になっています。

たくさんあって大変ですが、出来るだけ例文で覚えるようにして下さい。

話法 1

1. 話法の種類

話法とは、誰かの言葉を第三者に伝える方法のことです。そして話法には、直接話法と間接話法の2種類があります。

1 直接話法

主語＋said to＋人, "～."

直接話法とは、話したことをそのまま伝える方法です。日本語でカギカッコを使う表現と同じです。

英語では引用符（"）を使います。

例文：

Masao said to me, "I'm hungry."

（マサオは僕に「お腹が減った」と言った。）

2 間接話法

主語＋told＋人＋that＋～.

直接話法とは、話したことを自分の言葉に直して伝える方法です。カギカッコや引用符は使いません。

例文：

Masao told me that he was hungry.

（マサオは僕に自分はお腹が減ったと言った。）

2. 話法の転換

ここでは、直接話法から間接話法にする方法を紹介します。

1 平叙文（普通の文）の場合

次の順序に沿っていけば、話法の転換が完成します。

1. said to → told に変える
2. that をつける（省略できます）
3. 引用符とコンマを取る
4. “ ” 内の代名詞を変える
5. “ ” 内の動詞を変える
6. “ ” 内の副詞を変える

では実際に、この手順に従って変換してみます。

次の直接話法を間接話法に転換します。

例文：

She said to me, “I am reading a book now.”
(彼女は私に、「私は今本を読んでいるの」と言った。)

1. said to → told に変える
→ She told me, “I am reading a book now.”
2. that をつける（省略できます）
→ She told me that, “I am reading a book now.”
※実際には省略されることのほうが多いです。
3. 引用符とコンマを取る
→ She told me that I am reading a book now.
4. “ ” 内の代名詞を変える
→ She told me that she am reading a book now.

※客観的な判断をして代名詞を変えて下さい。

5. “ ” 内の動詞を変える

→ She told me that she was reading a book now.

※特に時制は要注意です。

6. “ ” 内の副詞を変える

→ She told me that she was reading a book then.

(彼女は私にその時彼女が本を読んでいると言った。)

※副詞をどのように変化させるのかは、ページ下3. をご覧下さい。

これで完成です。特に、時制と副詞の変化には注意して下さい。

2 疑問詞のある疑問文の場合

次の順序に沿っていけば、話法の転換が完成します。

1. said to → asked に変える
2. 疑問詞をそのまま接続詞にする
3. 引用符とコンマを取る
4. “ ” 内の代名詞を変える
5. “ ” 内の動詞を変える
6. “ ” 内の副詞を変える
7. “ ” 内の語順を平叙文にする
8. ? → . にする

では実際に、この手順に従って変換してみます。

次の直接話法を間接話法に転換します。

例文：

She said to me, “What are you looking for now?”

(彼女は私に、「あなたは今何を探しているの」と言った。)

1. said to → asked に変える

→ She asked me, “What are you looking for now?”

2. 疑問詞をそのまま接続詞にする

→ She asked me, “what are you looking for now?”

※実際には省略されることのほうが多いです。

3. 引用符とコンマを取る

→ She asked me what are you looking for now?

4. “ ” 内の代名詞を変える

→ She asked me what are I looking for now?

※客観的な判断をして代名詞を変えて下さい。

5. “ ” 内の動詞を変える

→ She asked me what was I looking for now?

※特に時制は要注意です。

6. “ ” 内の副詞を変える

→ She asked me what was I looking for then?

※副詞をどのように変化させるのかは、ページ下3. をご覧下さい。

7. “ ” 内の語順を平叙文にする

→ She asked me what I was looking for then?

※この手順は見落としがちです。

8. ? → . にする

→ She asked me what I was looking for then.

(彼女は私にその時私は何を探しているのか尋ねた。)

これで完成です。特に、時制と語順と副詞の変化には注意して下さい。

3 疑問詞のない疑問文の場合

2の疑問詞のある場合とは、2の手順だけが異なります。

1. said to → asked に変える
2. if か whether を接続詞にする
3. 引用符とコンマを取る
4. “ ” 内の代名詞を変える
5. “ ” 内の動詞を変える
6. “ ” 内の副詞を変える
7. “ ” 内の語順を平叙文にする
8. ? → . にする

では実際に、この手順に従って変換してみます。

次の直接話法を間接話法に転換します。

例文：

She said to me, “Will he come tomorrow?”

(彼女は私に、「彼は明日来るの」と言った。)

1. said to → asked に変える
→ She asked me, “Will he come tomorrow?”
2. if か whether を接続詞にする
→ She asked me if, “Will he come tomorrow?”
3. 引用符とコンマを取る
→ She asked me if Will he come tomorrow?
4. “ ” 内の代名詞を変える
→ She asked me if Will he come tomorrow?
※客観的な判断をして代名詞を変えて下さい。
5. “ ” 内の動詞を変える

→ She asked me if would he come tomorrow?

※特に時制は要注意です。

6. “ ” 内の副詞を変える

→ She asked me if would he come the next day?

※副詞をどのように変化させるのかは、ページ下 3. をご覧下さい。

7. “ ” 内の語順を平叙文にする

→ She asked me if he would come the next day?

※この手順は見落としがちです。

8. ? → . にする

→ She asked me if he would come the next day.

(彼女は私に彼が次の日来るのかどうか尋ねた。)

これで完成です。疑問詞のあるなしでは、接続詞だけが違ってきます。

3. 副詞の変化

直接話法から間接話法に変換する場合、副詞を適切な形に変えなければなりません。その変化の仕方を表したものが下の表です。

直接話法		間接話法
this (これ)	→	that (あれ)
these (これら)	→	those (あれら)
here (ここ)	→	there (あそこ)
now (今)	→	then (その時)
today (今日)	→	that day (その日)
tonight (今晚)	→	that night (その晩)
this week (今週)	→	that week (その週)
yesterday (昨日)	→	the day before (その前日)
		the previous day
last week (先週)	→	the week before (その前週)
		the previous week
tomorrow (明日)	→	the next day (その次の日)
		the following day
next week (来週)	→	the next week (その次週)
		the following week
～ ago	→	～ before

基本的には、すべてこの表に従って変化すれば OK です。ただし、下のような場合には注意が必要です。

例文：

She said to me yesterday, "I will go shopping tomorrow."

(彼女は昨日私に「私は明日買い物に行く」と言った。)

昨日「明日買い物に行く」と言ったわけですから、買い物に行くのは今日ということになります。従って、

→ She told me yesterday that she would go shopping today.

(彼女は昨日私に彼女が今日買い物に行くと言った。)

このように（tomorrow → today）変化させなければなりません。上の変化表を覚えたうえで、臨機応変に対応できるようになって下さい。

話法 2

様々な話法の転換

話法 1 で平叙文と疑問文について学びましたが、ここでは他の文の転換方法を紹介します。

1 命令文

主語＋tell＋人＋to 不定詞.

意味： 「～するように言う」

命令文の転換は比較的楽だと思います。むしろ平叙文よりも簡単かもしれません。

例文：

[直接話法]

The teacher said to us, “Stand up.”

(その先生は私たちに「立ちなさい」と言った。)

[間接話法]

The teacher told us to stand up.

(その先生は私たちに立つように言った。)

2 please の命令文

主語＋ask＋人＋to 不定詞.

意味： 「～するように頼む」

元々 ask に「頼む」の意味があるので、感覚をつかきやすいと思います。

例文：

[直接話法]

He said to me, “Wait a minute, please.”

(彼は私に「少し待ってください」と言った。)

[間接話法]

He asked me to wait a minute.

(彼は私に少し待つように頼んだ。)

3 Don't の命令文

主語＋tell＋人＋not to 不定詞.

意味： 「～しないように言う」

否定の文なので not を使います。変換する場合は not の位置に注意して下さい。

例文：

[直接話法]

My mother said to me, "Don't eat too much."

(母は私に「食べ過ぎないように」と言った。)

[間接話法]

My mother told me not to eat too much.

(母は私に食べ過ぎないように言った。)

4 Let's の文

主語＋suggest to＋人＋that＋主語＋(should)＋～.

意味： 「～を提案する」

should はアメリカ英語では省略されます。しかしテストではよく出題されますので覚えて下さい。

例文：

[直接話法]

She said to me, "Let's go to the park."

(彼女は私に「公園に行こうよ」と言った。)

[間接話法]

She suggested to me that we (should) go to the park.

(彼女は私に公園に行こうと提案した。)

5 感嘆文

感嘆文の転換には2つの方法があります。どちらでも構いません。

○ 主語＋tell＋人＋感嘆文.

引用符の中にある「代名詞」と「動詞の時制」も変化させなければなりません。

例文：

[直接話法]

The teacher said to him, "How smart you are!"

(先生は彼に「あなたはなんて利口なんでしょう」と言った。)

[間接話法]

The teacher told him how smart he was.

(先生は彼になんて利口なんだろうと言った。)

○ 主語＋tell＋人＋that～.

that 節で文をつなげるパターンです。元が感嘆文なので、very などをつける場合が多いです。

例文：

[直接話法]

The teacher said to him, "How smart you are!"

(先生は彼に「あなたはなんて利口なんでしょう」と言った。)

[間接話法]

The teacher told him that he was very smart.

(先生は彼にとっても利口だと言った。)

場合によっては、cry (泣く)、exclaim (叫ぶ) にしたり、with delight (喜んで)、with regret (後悔して) などを 加えたりすることもあります。

6 重文

主語＋tell＋人＋that～＋接続詞＋that….

and や but の接続詞の後に that を再び使います。that を 2 回使うことになります。

例文：

[直接話法]

My father said to me, “This is mine and that is yours.”

(父は私に「これがパパのものであれがおまえのだ」と言った。)

[間接話法]

My father told me that this was his and that that is mine.

(父は私にこれが彼のものであれが私のだと言った。)

7 混ざった文

and でつないでそれぞれに応じた動詞を使う

命令文や疑問文などが混ざっている場合は、上記で紹介しているそれぞれに応じた動詞を使って下さい。

例文：

[直接話法]

He said to me, “You are late. Don't be late again.”

(彼は私に「遅いよ、もう遅れるなよ」と言った。)

[間接話法]

He told me that I was late and told me not to be late again.

(彼は私に遅いと言い、もう遅れないように言った。)

1～7 まで紹介しましたが、特に 1～4 は出題率が高いのでチェックして下さい。